

検診率向上のために～山形県におけるスモン検診～

鈴木 義広（日本海総合病院神経内科）

片桐 忠（かほく紅花クリニック神経内科）

栗村 正之（公立置賜総合病院神経内科）

研究要旨

山形県でのスモン検診受診者は最近減少の一途であった。あらためて県内のスモン患者数を把握して、いかに検診率を向上させるかを考えた。まずは県障害福祉課担当者に特定疾患研究事業の受給者一覧を作成していただいた。その全患者に検診可能かどうかのアンケートを行った。検診不可と答えたあるいは返信のなかった患者以外は、可能な限り訪問検診も含めて検診を積極的に行うように努めた。その結果、特定疾患受給者数は23名であり、アンケート調査にて18名より返信あり、うち2名は検診不可の返事で、のこり16名につき検診を行った。うち検診会場3か所まで来場した患者は10名のみで、1名は病院受診、3名は自宅、1名は病院、1名は施設への訪問検診を行った。また送迎が必要であった3名の送迎はすべて医師単独で行った。今後もアンケート調査にて返信のなかった患者も含めて全患者の状態把握を行い、積極的な訪問検診や送迎を行っていきたい。

A. 研究目的

山形県でのスモン検診受診者は、平成23年度までは15名以上いたが、平成24年度に8名に減少し、25年度11名、26年度14名、27年度15名、28年度12名と減少傾向であった（図1）。原因として平成24年度以降、県村山地区における検診施設の協力が得られなくなったこと、また患者の高齢化に伴い公共交通機関での移動困難や施設入所などが揚げられる。あらためて県内のスモン患者数を把握して、いかに検診率を

向上させるかを考えた。

B. 研究方法

まず県障害福祉課担当者と連絡をとり、特定疾患研究事業の受給者一覧を作成していただいた。その全患者に、検診会場まで来て参加できるか、往診なら可能か、検診不可かのアンケートをダイレクトメールにて行った。検診不可と答えたあるいは返信のなかった患者以外は、可能な限り訪問検診も含めて検診を積極的に行うように努めた。

C. 研究結果

平成28年時点で特定疾患受給者数は23名であった。山形県4地方別では、置賜地方が14名で最多、村山地方5名、庄内地方3名、最上地方1名であった（図2）。全員にアンケートを送ったところ18名より返信あり、うち2名は入院または入所中にてお断りと返事であった。のこり16名（70%）につき検診を行った。うち検診会場3か所まで来場した患者は10名の

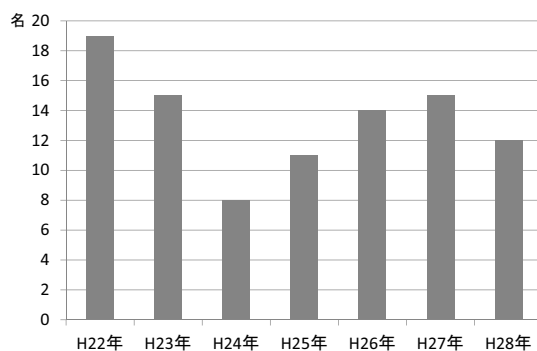


図1 山形県の検診受診者数の推移



図2 山形県におけるスモン特定疾患受給者分布

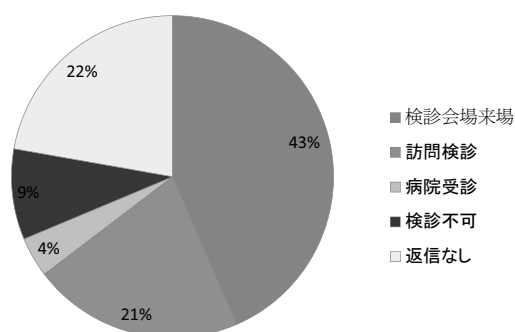


図3 アンケート結果

みで、3名は自宅訪問検診、1名は病院訪問検診、1名は施設訪問検診、1名は病院受診の形で検診を行った(図3)。検診会場ではリハビリスタッフおよび保健師の協力を得たが、訪問検診ならびに来場に送迎が必要であった3名の送迎はすべて医師単独で行った。16名中3名は6～8年ぶりの検診で、うち1名は自宅訪問検診、1名は施設訪問検診であった。

検診した16名の平均年齢は78.0歳であった。Barthel Indexの平均は72.5と比較的良好であったが、検診会場で検診を行った10名に限れば87.5で、検診会場への来場不可の6名では41.7であった。歩行不可の患者は4名、明らかな認知症の患者も4名であった。

D. 考察

東北地方ではこれまで、千田らにより検診率向上に向けての考察が何度かされてきた。それによると、受診しやすい検診体制として、検診日程の早期連絡、検診直前の参加意思再確認、検診会場数・回数を

増やす、交通手段の確保、訪問検診の併用、検診の付加価値を高めることが揚げられていた¹⁾。今回われわれは特に「および」を積極的に行ったことで検診率向上につながった。平成27年度の東北地方全体の調査では、6年間で検診率が48.6%から61%に向上し、その主な要因が訪問検診の併用としている²⁾。患者の高齢化が進み、歩行障害の進行や認知症の合併もあり、交通手段の確保も困難な患者が増えていることを考えても、訪問検診を盛んに行うことが検診率向上には必須と思われる。

また藤井らは、検診希望の有無につき一次調査を行ったが返信のなかった患者の、生活場所の把握と検診形態の選択肢を増やすことが必要としている³⁾。今後は、われわれも返信のなかった患者について、生活実態などを把握し、検診阻害因子を答えていただくことで、それを少しでも取り除くことによりさらなる検診率向上を図りたいと考える。

E. 結論

今回、県担当者と連絡をとることであらためて患者数を把握できた。またアンケート調査にて希望の患者には積極的に訪問検診を行うこと、交通機関が不便な患者には送迎を行うことで検診率を向上させることができた。今後も可能な限り全患者への密な連絡、送迎、訪問検診を積極的に行って検診率向上に努めたい。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 千田圭二, 他: 東北地区スモン検診受診者における非受診に関する調査. スモンに関する調査研究班・平成26年度総括・分担研究報告書. p 115-171, 2015
- 2) 千田圭二, 他: 東北地区スモン検診の検診率向上への再考. スモンに関する調査研究班・平成27年度総括・分担研究報告書. p 123-125, 2016
- 3) 藤井直樹, 他: スモン検診率向上のための取り組み. スモンに関する調査研究班・平成27年度総括・分担研究報告書. p 126-128, 2016